

平成27年度 防衛大学校入校式  
来賓代表祝辞

防衛大学校本科第63期生諸君を始め、理工学研究科第54期前期・第15期後期課程及び総合安全保障研究科第19期前期・第7期後期課程の諸官、また、遠く祖国を離れて入校されたカンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、モンゴル国、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、大韓民国、シンガポール共和国、タイ王国、東ティモール民主共和国及びベトナム社会主義共和国からの留学生のみなさん、入校まことにおめでとうございます。

諸君が見事難関を突破し、晴れて入校の栄冠を勝ち取られたことに敬意を表しますとともに、この日を待ち望んでおられたご家族の皆様に心からお祝い申し上げます。

今、この場に立ち、私も37年前、諸君と同じ本科学生の一人として、希望と高揚感、そして一抹の不安を抱きつつ、この式に臨んでいたことを、鮮明に思い出しております。

本日、入校した本科学学生諸君も同じように、希望と不安が入り交じっていることと思います。しかしながら、今日からは、防衛大学校職員が、そして先輩学生が温かく、時には厳しく導いてくれ、諸君のこれからの生活は、諸君の先輩と同様に、諸君の人生にとり、かけがえのない素晴らしい充実した四年間になることでしょう。

どうか、安心してこの小原台に集う同期生とともに青春を謳歌し情熱を燃やして、これからの学生生活を送ってもらいたいと思います。

本日は、諸君の入校を祝し、陸・海・空自衛隊を代表しまして、また、本校の卒業生として、まず、本科学学生諸君に対して、二点申し上げたいと思います。

まず、一点目は個人の資質に関することです。防衛大学校の建学からの歴史を振り返りますと、防衛大学校第一期生の入校式において、榎智雄初代学校長は、入校生に対し、第一に、偏することなき均衡のとれた人物たれ、第二に、民主制度に対する的確な理解を持ってと説かれています。この考えは、現在においても何ら変わることはないものだと思います。

偏することなき均衡のとれた人物とは、いかに学問に秀でていても、人として

の性格や指揮する力量に欠くことがあれば、本校で履修する目的の半分は失われるものとして、学問への精励と人格の陶冶の両方を説いたものであります。

民主制度に対する的確な理解とは、民主主義と服従の精神、あるいは自由と規律の関係であります。規律なくして真の自由はなく、遵法精神または正義に服従する意思なくして真の民主主義は成立しないものであります。

これらは、民主主義国家である我が国において、自衛隊の幹部に必要な普遍的な要素であり、諸君に強く求められている資質であります。諸君ひとりひとりが今後四年間を通じて、偏することなき均衡のとれた人物になり得るように、また、民主制度に対する的確な理解ができるよう修養されることを期待しております。

第二点目については、同期の絆であります。自衛隊は昨年創隊60年を迎えました。この間、諸君の先輩は、国家・国民の負託に応えるため、高い使命感と強い責任感をもって我が国の平和と独立を守ってきました。

また、国外においては、ペルシャ湾への掃海部隊派遣、カンボジア・モザンビーク・ゴラン高原・東ティモール・ハイチ等でのPKO活動及びイラクでの人道復興支援活動並びにインドネシア地震津波災害・フィリピン台風災害等における国際緊急援助活動などに従事して、国際社会の平和と安定に大きく寄与してきました。国内においては、阪神淡路大震災、東日本大震災における災害派遣活動や昼夜を分かたない離島からの緊急患者輸送などの任務を遂行し、国民の生命と財産を守る我が国の最後の砦として、国民から高い信頼を獲得してきました。

そして、今この瞬間においても、南西地域をはじめとする我が国周辺海空域での警戒監視並びに対領空侵犯措置に従事し、我が国の領土・領海・領空を守るとともに、海外においては、ソマリア沖アデン湾での海賊対処、アフリカ南スーダンの国連平和維持活動等に従事しております。

陸・海・空自衛隊は、我が国を取り巻く安全保障環境を踏まえ、自衛隊として対処すべき事態に、より実効性をもって対応するため、平成十七年度末に統合運用体制に移行し、今年度末でちょうど十年を迎えます。現在は、陸・海・空の三自衛隊が一体となってその実力を発揮することにより、各種の任務を遂行しております。

今後、統合運用体制の強化に対する期待は、更に強くなっていくものと考えております。この統合運用体制の礎となっているのが、本校であります。防衛大学校は、将来、陸・海・空自衛隊の幹部自衛官となるべき者が集う、世界に誇る素晴らしい教育機関であります。

諸君は、これからの四年間を同期生とともにここ小原台において苦楽をともにし、切磋琢磨しあい、同期としての強い絆を築いていくことでしょう。

この同期の絆が、将来、諸官が自衛隊において任務に就く際に欠かせない統合マインドの基盤になるものであります。大いに、勉学の場や学生舎、さらには、校友会活動などを通じて、同期生としての絆を育んでもらいたいと思います。

留学生のみなさん、みなさんは、一人一人が貴国にとっての宝であり、日本にとってのかけがえのない友人であります。どうか、これからの四年間、日本の学生諸君とともに真の友情を築き、将来にわたり、祖国と日本との架け橋になられんことを期待しています。

次に、理工学及び総合安全保障研究科学生の諸官に申し上げます。諸官がこれから学ぶ、科学技術及び安全保障に関する専門的知識・技能は、一国の防衛を全うするために必要不可欠のものであります。科学技術は日々進化しており、また、安全保障環境も一層厳しさを増している中、自衛隊はこの変化に遅れをとることは許されません。諸官は、それぞれの専門分野において最先端の知識、動向を吸収し、現防衛計画の大綱で示された統合機動防衛力の具現化のため、我が国の防衛に資する装備品や安全保障戦略を生み出すという気概をもって、日々の研鑽を積んでもらいたいと思います。

終わりにあたり、ご子息・ご息女が今日のこの佳き日を迎えられたご家族の皆様に対しまして、重ねて、お慶びを申し上げますとともに、防衛大学校の益々のご発展と、将来の自衛隊を担う学生諸君・諸官が、今日の澁刺とした初心を忘れず、今後大いに伸展されることを心から御祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。

平成27年4月5日  
統合幕僚副長 陸将 山崎 幸二